

東北地方石油懇談会 2022 年 11 月

わが国の灯油価格について

一般財団法人日本エネルギー経済研究所

石油情報センター

1. 最近の原油価格の推移



2. 石油需給の状況

石油需給の推移（IEA石油市場報告2022年10月号等より作成）【単位：百万BD】

区分	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
需要 計	91.7	92.9	95.3	96.3	98.2	99.5	100.6	91.5	97.7	99.6	101.3
供給 計	91.2	93.7	96.4	96.9	97.6	100.3	100.6	93.8	95.3	*99.6	*101.3
OPEC原油	30.6	30.7	31.4	32.4	31.5	31.4	29.6	25.7	26.4	*28.8	*30.1
うちサウジ	9.4	9.5	10.1	10.4	10.0	10.3	9.8	9.2	9.2	NA	NA
イラン	2.7	2.8	2.9	3.6	3.8	3.6	2.4	2.0	2.4	NA	NA
イラク	3.1	3.3	4.0	4.4	4.5	4.6	4.7	4.1	4.0	NA	NA
非OPEC	60.0	63.0	65.0	64.5	66.1	68.9	70.9	68.1	68.9	70.8	71.4
うち米国	10.2	12.0	13.0	12.5	13.3	15.5	17.2	16.6	16.9	18.0	19.2
ロシア	10.9	10.9	11.1	11.3	11.3	11.5	11.6	10.6	10.9	10.9	9.6
需給ギャップ	-0.5	0.8	1.1	0.6	-0.6	0.8	0.0	2.3	-2.4	*0.0	*0.0

注：*は需給均衡を仮定した数字

原油価格の見通し（米エネルギー情報局 2022年10月）

2022年10月見通し

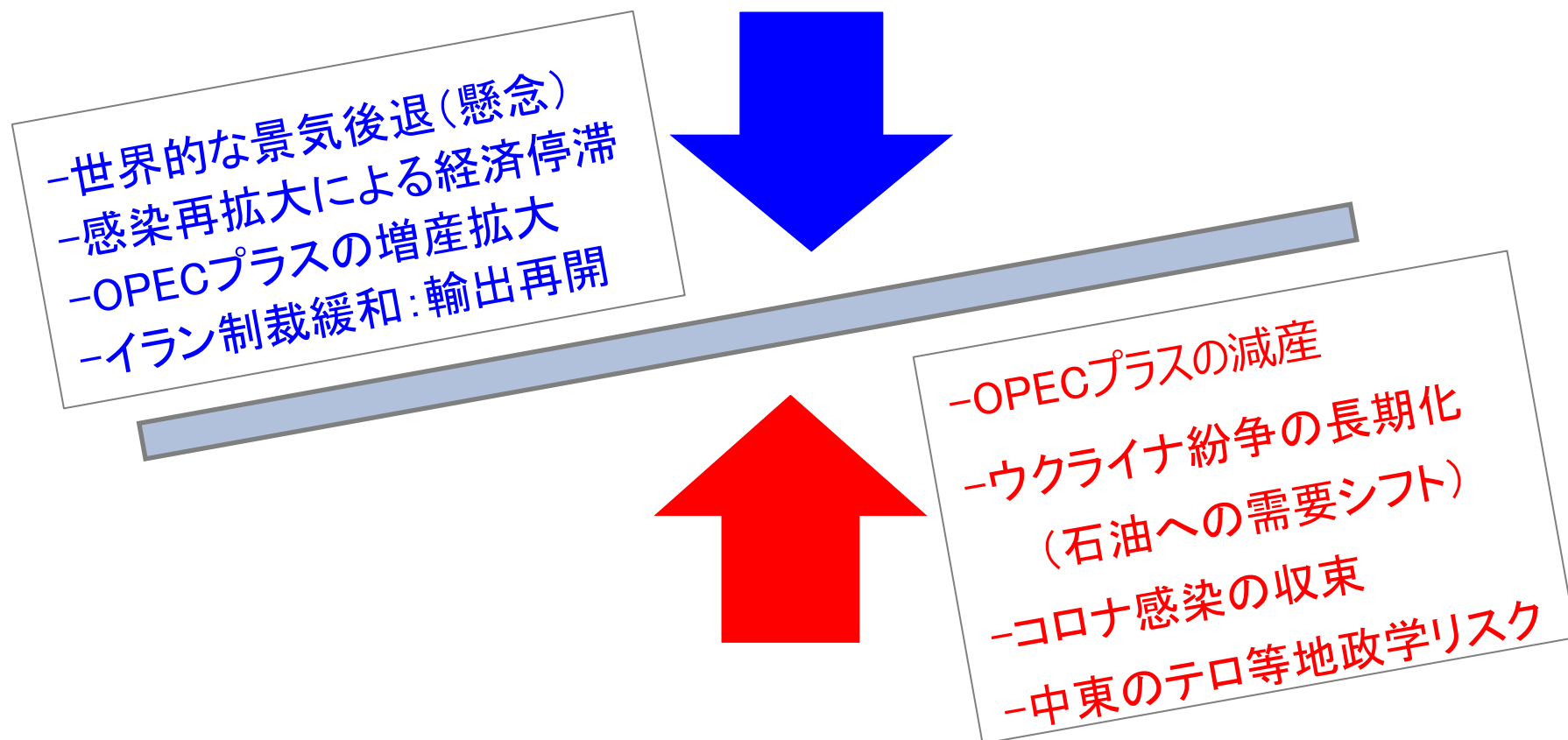
【単位：ドル/バレル】

油種	2021CY	2022CY					2023CY
		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	平均	
WTI	68.21	95.18	108.93	93.07	85.98	95.74	88.58
Brent	70.89	101.17	113.84	100.53	92.98	102.09	94.58
格差	▲2.68	▲5.99	▲4.91	▲7.46	▲7.00	▲6.35	▲6.00

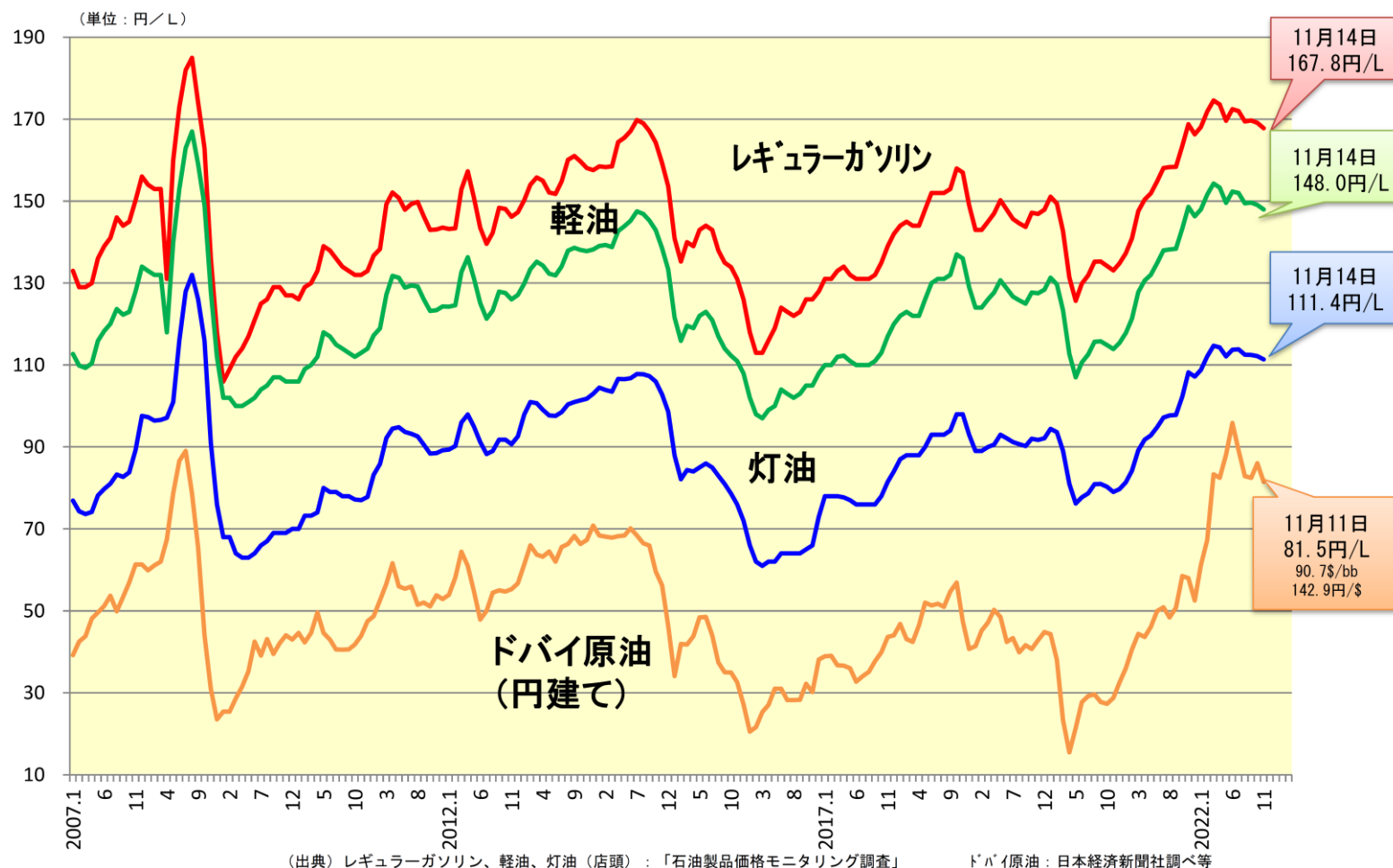
- ・ コロナ禍で需要激減、現在回復中
- ・ 米国は、2014年から最大産油国
- ・ 2020年供給過剰、2021年供給不足
- ・ 米EIAによれば、2022年下期は景気後退（懸念）で価格軟化

3. 今後の原油価格の主な変動要因

- 最近は、世界的な景気後退（懸念）とOPEC+の減産で綱引き
- ウクライナ情勢の長期化の中、先行き不透明な展開が続く



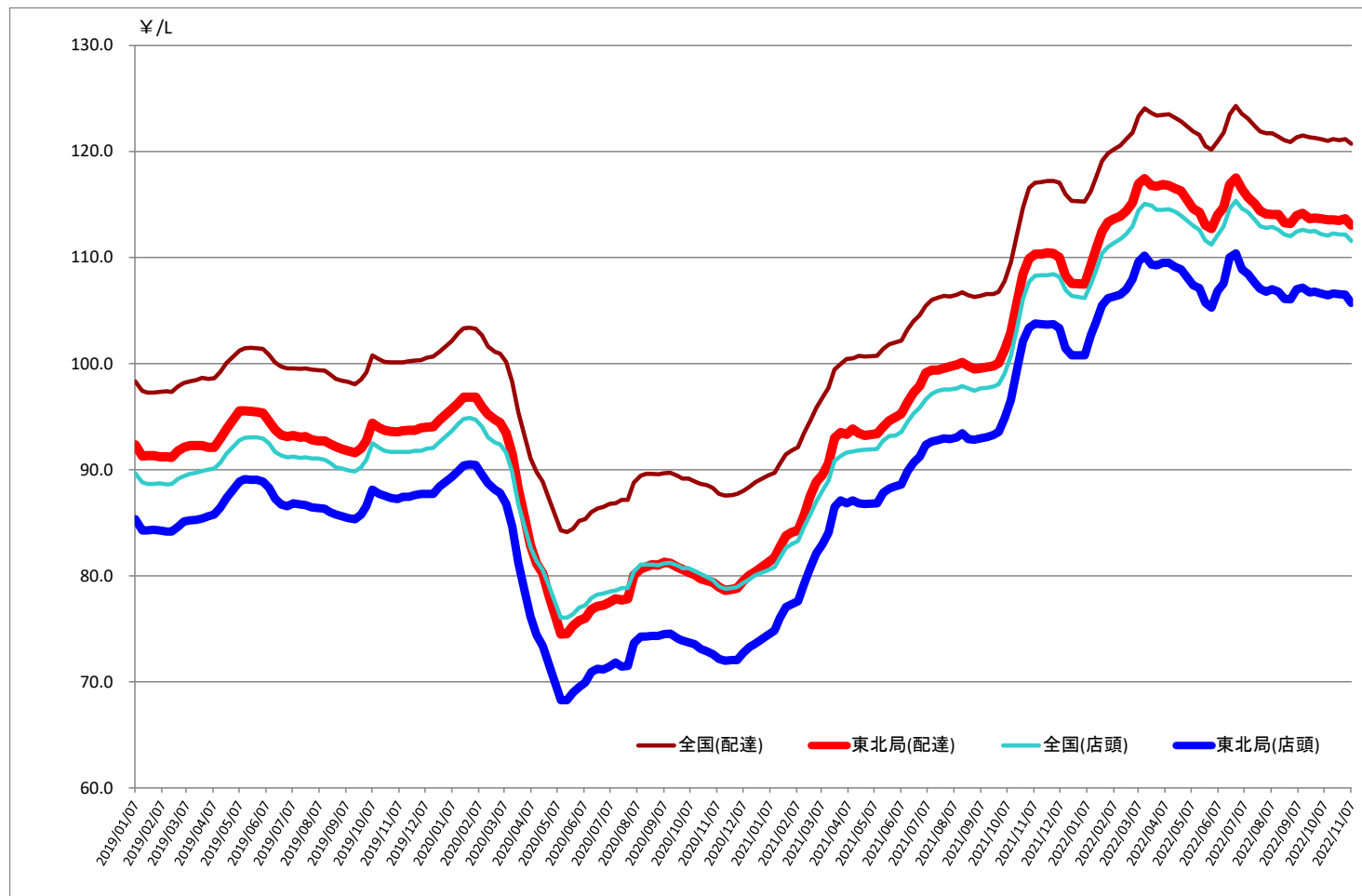
4. 石油製品小売（SS店頭）価格の推移



- 国内の石油製品価格は、近年、原油輸入価格との連動性が高まっていた。
- 本年2月以降、補助金効果で原油輸入価格が高騰しても、製品価格は安定。

5. 東北地域の灯油 S S 小売価格の推移

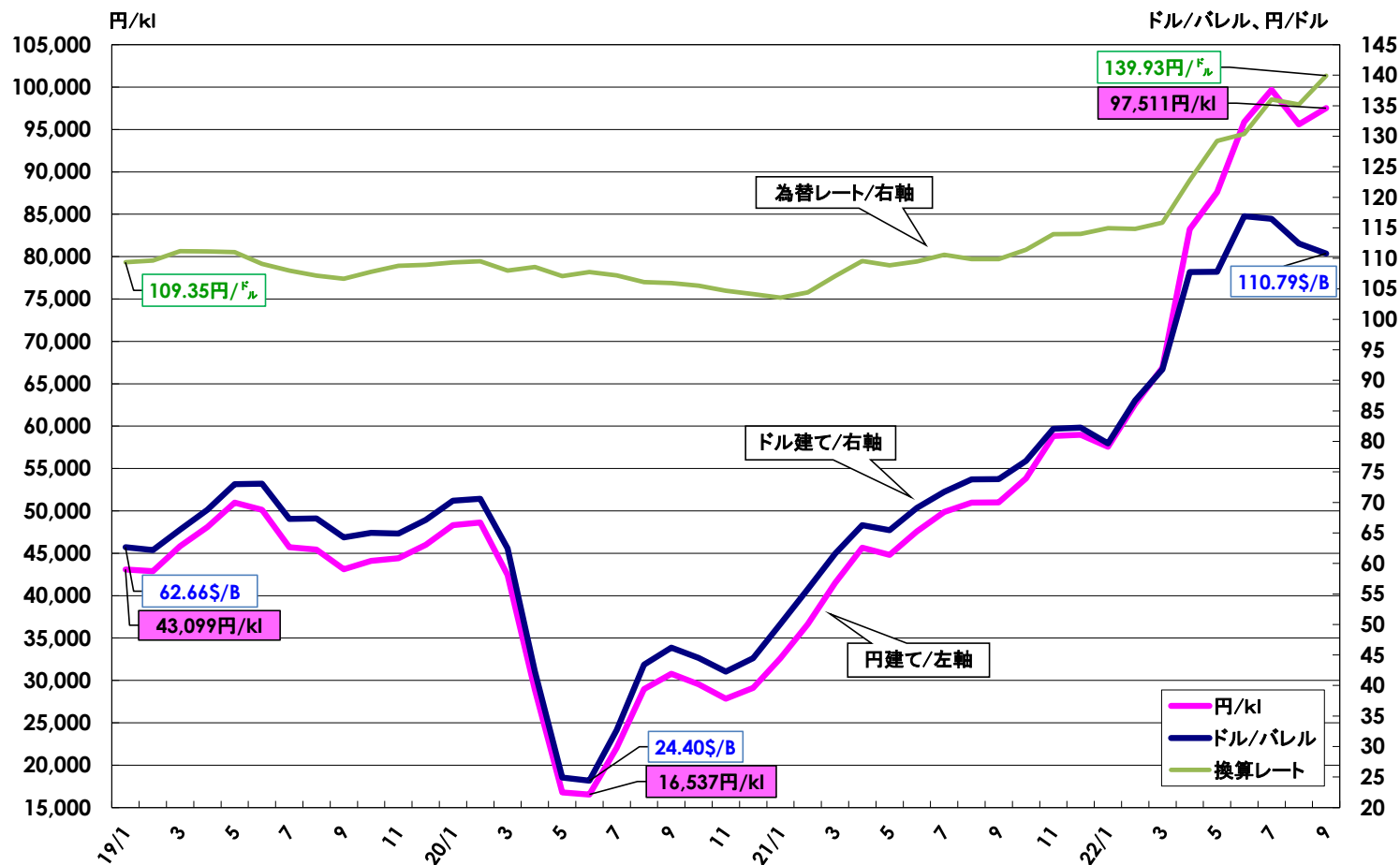
東北地域の灯油小売価格は、配達・店頭ともに、全国平均を5円以上上下回る水準で推移している。



出所：資源エネルギー庁調査より石油情報センター作成

6. 原油価格における為替の影響

本年3月以降、最近の急激な円安で、円建て原油輸入価格は、ドル建て原油価格の上昇に拍車をかけた。



(出所) 通関統計等より石油情報センター作成